

「高等学校における進路指導の在り方に関する調査研究」

事業実施報告書

団体名 ( 宮 城 県 )

1 事業の実施期間 平成22年9月1日から平成23年3月31日

2 調査研究の実績

(1) 調査研究のテーマ

テーマ：社会的・職業的自立へ向けた「志教育」の推進  
～普通科高等学校における学校教育と社会との円滑な接続を目指して～

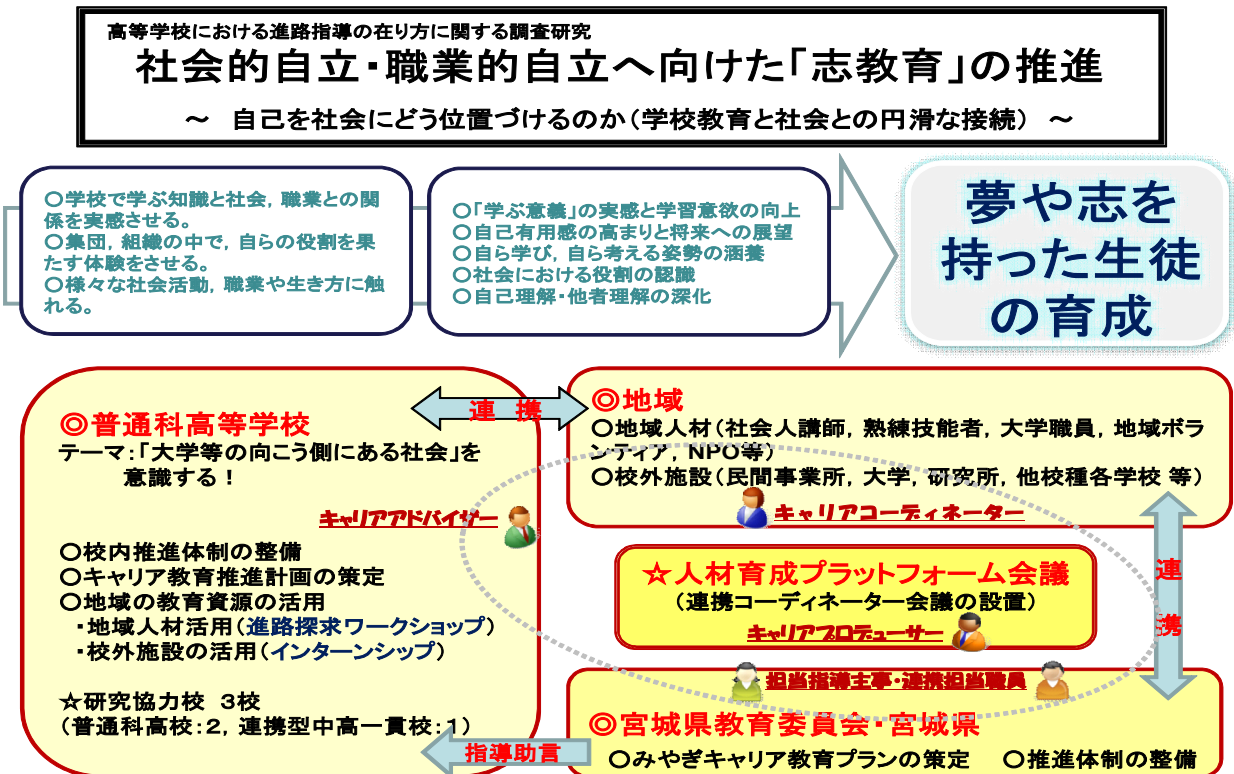
(2) 調査研究の内容

研究協力校として3校を指定（普通科高等学校2校：仙台向山高等学校、多賀城高等学校、併設型中高一貫校：古川黎明高等学校）し、調査研究を実施した。  
各研究協力校の内容を記載する。

- 仙台向山高等学校
- 多賀城高等学校
- 古川黎明高等学校

(学校名をクリックすると各学校の研究内容が御覧いただけます)

(3) 推進組織体制



推進協議会の構成

所 属	役 職
日本キャリア教育学会	会長 菊池 武剋 (東北大学名誉教授、放送大学客員教授)
国立大学法人宮城教育大学	准教授 本 岡 愛実
NPO法人 ハーベスト	代表 中山 聖子
みやぎ北若者サポートステーション	所長 岩淵 隆児
宮城県教育研修センター	所長 齋藤 公子
宮城県高等学校進路指導研究会	会長 佐藤 茂樹 (富谷高等学校長)
仙台向山高等学校 (研究協力校)	校長 小野 秀壽
古川黎明高等学校 (研究協力校)	校長 佐々木 一彦
多賀城高等学校 (研究協力校)	校長 武田 和夫
宮城県	経済商工観光部産業人材対策課長 林 毅
宮城県教育委員会	宮城県教育庁高校教育課長 氏家 仁

(4) 実施日程

時 期	内 容	備 考
9月2日	第1回担当者会開催 (①事業概要について②今後の研究の進め方③実施計画について④予算について)	参加者11名
10月4日	第2回担当者会開催 (①平成22年度事業実施体制・事業計画・予算②第1回推進協議会について)	参加者10名
10月11日	NPO法人主催オータムセミナー参加	
10月18日	仙台向山高校公開授業	
10月25日	第1回推進協議会開催	参加者16名
10月下旬	キャリア教育研修会 (教育研修センター)	古川黎明・仙台向山講師
11月下旬	夢と志フォーラム (意見発表、パネルディスカッション参加)	古川黎明発表
11月下旬	「みやぎ志教育」プラン策定	県内小中高教員配布
12月22日	進路指導総合推進事業第3回担当者会 ①進路指導総合推進事業進捗状況について ②成果発表会について ③リーフレット作成について ④県外視察報告会	参加者10名
1月23日	進路指導総合推進事業第4回担当者会	参加者10名
2月14日	第2回推進協議会開催	参加者14名

2月23日	進路指導総合推進事業第5回担当者会	参加者10名
3月2日	事業報告会（仙台向山・多賀城・古川黎明） ※キャリア発達段階調査11月から1月 ※平成21年度卒業生動向調査（退学・離職状況） 研究のまとめ「事業報告書」 普通科高等学校における志教育推進	参加者68名県庁 研究協力校3校 生徒・教員
3月下旬	各学校平成23年度の「みやぎ志教育」全体計画作成 平成23年度の校務分掌に「志教育」担当者を位置付け	

## （5）調査研究の成果

### ①調査研究により得られた成果

本県教育委員会は、平成22年9月1日より平成23年3月31日まで委託契約を締結し、事業を実施してきたところである。

普通科高等学校3校を研究協力校として指定し、7か月という短期間ではあったが、各学校の実態に応じて、今までの学校の教育活動を新たにキャリア教育という視点で捉えなおし、学校の教育目標や教育方針、教育課程等へのキャリア教育（本県では「志教育」と呼び推進）の位置付けを明確にすることができた。

地域の教育資源の活用では、3校ともNPOとの連携によりワークショップ形式セミナーを開催し、生徒の勤労観・職業観の形成に大きな効果があった。

教職員のキャリア教育研修の充実については、3校とも先進校視察を実施し、校内研修会や進路指導推進事業担当者会、事業報告会で報告し、教員への啓蒙を図った。

保護者への啓発については、各高校に配置したキャリアアドバイザー等が中心となり定期的に、キャリア通信を発行するなどした。

県の教育研修センターと連携を図り、共通のキャリア教育に関する調査を実施し、各校の生徒の現状を知る手がかりとすることができた。

また、平成21年度の卒業生全員にハガキを出し、卒業後の動向を知ることができ、学校のキャリア教育の検証、後輩への意欲付けとなった。

合わせて5回の担当者会、2回の推進協議会、まとめの事業報告会を開催し、普通科高校間の連携を深めるとともに、各高校の実践の成果を県内の高校に広めることができた。

### ②成果の普及に関する取組

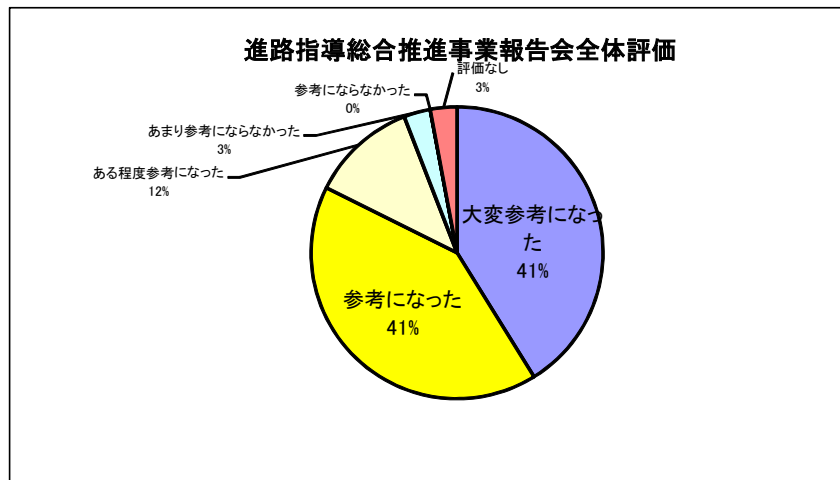
・「志教育」の全体計画について、他校に先掛けて作成し、3月2日に実施した事業報告会で資料として配布した。

・事業報告会を実施し、各高校の研究内容の報告、生徒の発表を実施し、教員への啓蒙を図った。また、参加者にアンケートを実施した。以下は、事業報告会参加人数、アンケートのまとめである。

参加者合計人数 68名（推進委員9名、教職員・学生等35名、県・教育委員会関係9名、発表校教員6名 生徒9名）

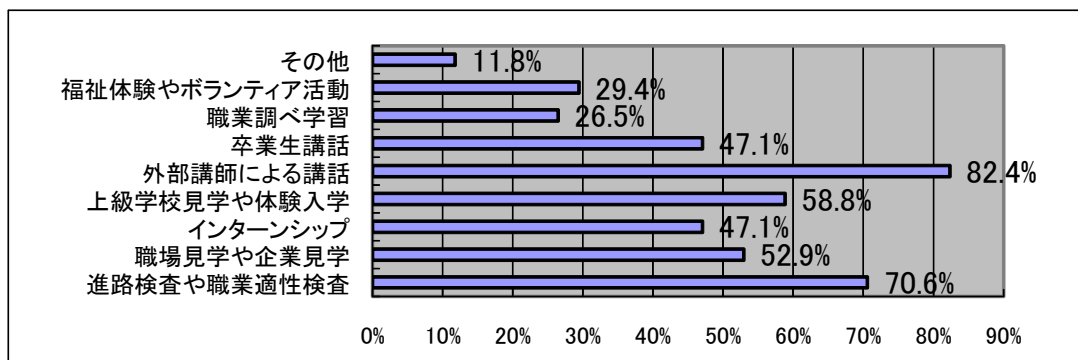
#### 1) 報告会全体についての評価（34名回答）

大変参考になった41%、参考になった41%で8割以上が参考になったと回答している。



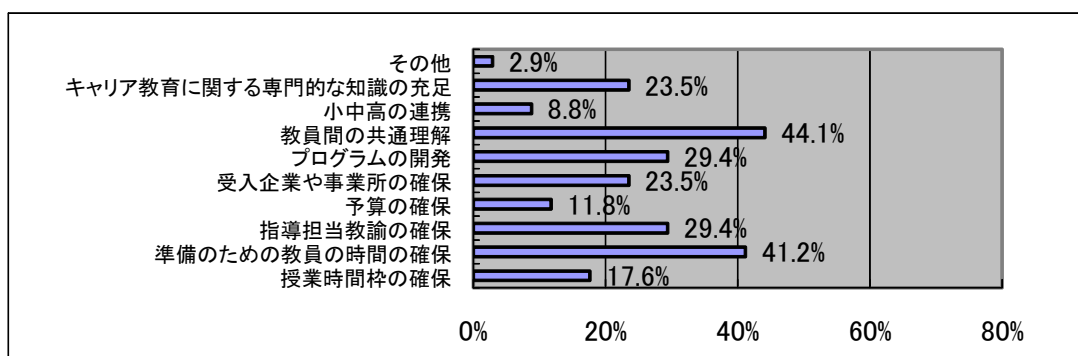
2) 各学校で実施しているキャリア教育の取組

各高校では「外部講師による講話」は8割以上で実施、また「進路検査や職業適性検査」も7割以上が実施していると回答。「インターンシップ」や「職場見学・企業見学」等は5割にとどまっている。



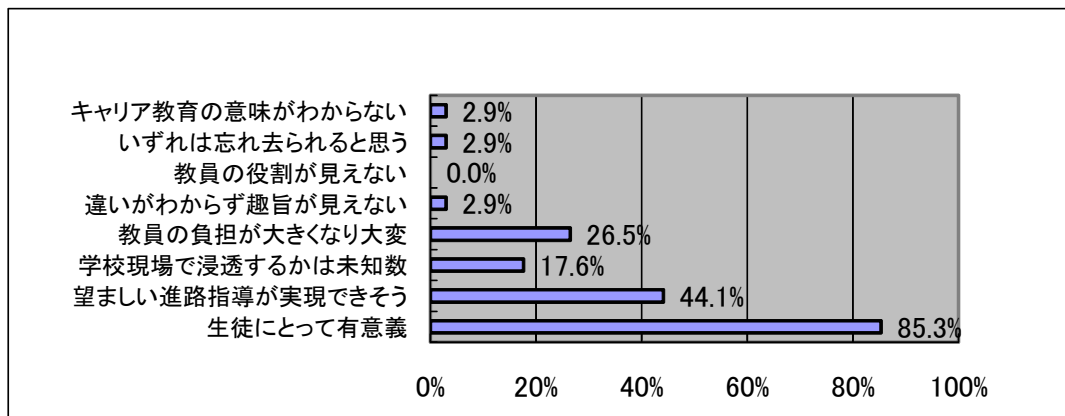
3) 各学校でキャリア教育を実施する上での課題

課題として一番多かったのが、「教員間の共通理解」で44.1%、次に「準備のための教員の時間の確保」41.2%であった。



4) キャリア教育について考え方

「生徒にとって有意義」だと85.3%が回答し、「生徒にとって望ましい進路指導ができそうだ」と44.1%が回答している。しかし、前出3)にも関連するが「教員の負担が大きくなり大変」と3割弱は回答している。



## (6) 今後の課題

①生徒対象の「キャリア教育に関する調査」について、研究の期間が短かったことなどから1回の実施で、生徒の変容を見るまでに至らなかった。また、県教育研修センター作成のものを活用したが、調査項目等の精査が必要との意見があり、今後の課題となった。

保護者のアンケートについては、キャリア教育に関する独自の調査は実施できず、学校評価等もあることなどから、今後は各学校の学校評価の項目の一部にキャリア教育に関するものを追加していくことも考えられる。

②社会人講師の活用については、通常の講義形式の活用に加え、NPO法人との連携のもとワークショップ形式のセミナー開催により多くの講師の活用を図ることができたが、講師謝金の問題等がある。

③高校卒業後の進路状況については、卒業した生徒対象に実施したが、大学卒業後等の状況も把握するには、長期的な調査が必要となってくる。

④インターンシップの参加については、職業人インタビューや職場訪問を実施をした高校もあったが、本格的なインターンシップの実施はまだ難しい状況にある。

⑤当初はリーフレットを作成し、普通科高等学校のキャリア教育について、保護者への配布を考えていたが、研究協力校3校にそれぞれに学校の実態に応じて研究をしてもらっており、県教育委員会として普通科高等学校としてのまとめには至らなかったことから、今回は研究報告書という形で、各高校に配布することにした（今回は東日本大震災の影響で研究報告書の完成にはいたらなかった）。今後は、研究協力校、県教育委員会が十分な検討を行った上で、保護者にもわかりやすいリーフレットを作成し配布することが必要と考える。

全体を通して、教員の意識としては、事業報告会のアンケート結果などから、キャリア教育は「生徒にとって有意義」、「生徒にとって望ましい進路指導ができそうだ」と思っているが、「教員の負担が大きくなり大変」と感じている教員も多く、教員の時間の確保や負担感を軽減する措置が必要と思われる。教員の負担感を軽減するには学校と社会との接点をつなぐ、地域人材の活用やコーディネーターの存在も必要となってくる。また、教員がキャリア教育についての正しい認識を持てるよう研修会が必要である。

「イベント型」のキャリア教育に取り組み、単発で終わってしまう高校もあるが、日々の教科学習の中でいかにキャリア教育を位置付け、授業を進めるかが今後の課題である。